

# 大学は 「新しい学問生活への 出発」の場

獨協大学学長 山路朝彦



山路朝彦(やまじ・あさひこ)

1953年生まれ。81年東京外国語大学大学院修士課程外国語学研究所ゲルマン系言語専攻修士課程修了。86年獨協大学外国語学部専任講師、90年外国語学部助教授、01年外国語学部教授。本学における役職歴は、94～96年外国語学部教務主任、97～01年学長室委員、03～07年学生部長兼敬和館長、08～12年教務部長、12年～19年副学長兼総合企画部長および獨協学園理事。20年4月1日より学長に就任。

新年度を迎え、獨協大学では4月1日に入学式を開催し、2160名の学部生と7名の大学院生を迎えました。入学式では、「大学は学問を通じての人間形成の場である」という言葉が本学の建学理念であり、創設者である天野貞祐先生の言葉であるということを紹介しました。そして、その中の「学問」と「人間形成」という言葉について考え、獨協大学ではしっかりと学び、自らの成長を図ってほしいと述べました。

ここで改めて、大学での「学問」、皆さんにとっては「学ぶ」ということについて天野先生の述べられたことをもとに考えてみたいと思います。天野先生は獨協大学を創られるよりもずっと前から様々な大学とそこでの学びについて論じておられました。その中でも1940年、太平洋戦争(1941～1945)が始まる前の時期に行なわれた、ある講演の記録を読んでみましょう。天野先生は、大学において最も重要なのは学問の研究であるとされ、その大学での学問研究は次のようなものでなければならぬと述べておられます。

「学問の研究は原理を求め、学説をドグマとして採り入れないのであります。定説として受け取ることは大学的でない、私の述べることについてもそうであります。それはすべて決定されず互いに批判するもので定説として暗記するものであってはいけません。学説はすべて未決定であるからそれに如何なる批判的態度を取ってもいいと思います。」

かく大学は決定されたもの安定したものも保存伝達をする場所ではない。従って中学の単なる上級学校でもなく、補習科でもない。新しい学問生活への出発であります」

私たちは高校まで、例えば世界や日本の歴史を一冊の教科書で学んできました。そこには現在で最も正しいと思われる優れた歴史の記述が並んでいました。しかし、それを天野先生が言われた「定説」と言い換えるかどうかでしょうか。定説は新しい発見があれば覆ることがある、そんな不安定なものに思えてきませんか。大学では先生方が、ある事象

に対して現在の理解、学説はこうだけれど、もっと別の要素が働いているのではないかと、さらに詳細な分析が必要ではないかと、逆にもっと大きな枠組みで捉えなければならぬのではないかと、日々、研究しています。つまり、天野先生がおっしゃるように、「学説はすべて未決定である」のです。「未決定」であればこそ、それに対して「批判的」、すなわち、ある学説に対して別の学説をぶつけて議論し合うこと、真偽を争うことが可能なのです。

大学は議論の場であり、お互いの考えをぶつけ合う場であり、単に暗記する場ではないのです。すべてが未決定の中で学ぶのですから、正解もなく、不安で仕方がないかもしれませんが、逆に言えば自由なのです。人の意見を強制されることなく、自分で考えることができるのです。天野先生は、そのような大学での学びを始める皆さんを「新しい学問生活への出発であります」と祝福なさっています。どうか天野先生の創られた獨協大学で「新しい学問生活」を開始し、自由に議論し、自由な「学問」を楽しんでください。

(引用は、『天野貞祐全集』第1巻『道理の感覚』栗田出版会1971年刊、360頁より)

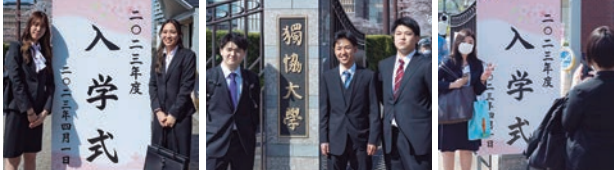


山路朝彦学長



入学式に出席する新入生

# 2023年度入学式 今年度は2,167名が入学



学内各所で記念撮影

〈学部〉ドイツ語学科:148名、英語学科:301名、フランス語学科:126名、交流文化学科:115名、言語文化学科:187名、経済学科:350名、経営学科:343名、国際環境経済学科:150名、法律学科:258名、国際関係法学科:94名、総合政策学科:88名  
合計 2,160名  
〈大学院〉法学研究科:1名、外国語学研究科:4名、経済学研究科:2名 合計7名

4月1日、35周年記念館アリーナにて2023年度入学式を挙行し、2167名が新たなスタートを切った。今年も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、学部を指定した2部構成で実施した。

式典で、山路朝彦学長は「教職員一同、皆さんが持っている素晴らしい能力を、この草加の地の獨協大学でさらに花咲かせることができるように努めます。皆さんは獨協大学で学ぶことに誇りと自信を持ち、この学修・生活環境の中で、自らを精一杯磨き上げる努力を怠らないでください」と式辞を述べた。続いて、吉田謙一郎獨協学園理事長は「本日の入学は皆さんが勉学に励んだ努力の結果です。心から敬意を表します。一生懸命勉学に励み、物事を俯瞰的に見られる幅広い教養と健全な批判的精神を養い、次の時代を切り拓く人物に育ってください」と激励の言葉を贈った。

また、駐日ドイツ連邦共和国大使館クラウス・フィッツェ首席公使より、「外国語の知識は、仕事をしていくうえでさまざまな可能性を拓いてくれます。皆さん、ぜひ好奇心を持ち続け、知識欲旺盛でください。学ぶことを決めてあきらめないで下さい」とお祝いと激励のメッセージが寄せられた。

入学式終了後、新入生たちは学生証の交付を受け、その後キャンパス内の各所で記念撮影する姿が見られた。

# 第56回 卒業式・ 第45回 学位記授与式

■ 学 士

学位記取得者は次のとおりです。

学 科	取得者数	総 代
ドイツ語学科	113名	中ノ目 亜子
英語学科	242名	VAIVRAND CALVIN VINCENT BENET
フランス語学科	91名	津田 さくら
交流文化学科	98名	青木 美紗都
言語文化学科	140名	参田 沙良
経済学科	276名	鈴木 千春
経営学科	277名	櫻井 樹
国際環境経済学科	121名	北川 優
法律学科	209名	保原 未桜
国際関係法学科	77名	宮川 弦
総合政策学科	65名	宮崎 貴裕

■ 修 士

研究科	取得者数	総 代
外国語学研究科	2名	青木 朋恵
経済学研究科	1名	蔣 承霖



学位記と共に記念撮影



各学科の総代が山路学長から学位記を受け取った

3月20日、第56回卒業式・第45回学位記授与式を挙行し、1712名の卒業生、修了生が旅立ちの日を迎えた。

式典は、キャンパスおよび式典会場が密にならないよう学部を分け2部制で実施し、卒業生および、父母・保証人2名まで出席を可能とした。

山路朝彦学長は「本日の学位記授与は、コロナ禍でも『学びを止めない』という努力の成果であり、困難を克服して学位にふさわしい学びを修められたことを証明するものです。それぞれが得たものを、これからの社会における活動の場で精一杯発揮して、『優しい』社会を創り出していきましょう」と式辞を述べた。続いて、吉田謙一郎獨協学園理事長は、「自らが経験、観察したことを基盤として、物事の真偽を吟味し、置かれた環境で努力をしてください。夢を持ち、吟味力、俯瞰的視野、ポジティブシンキングのもとで新たな人生を切り拓いてください」と卒業生を激励した。

卒業生を代表し、第1部では工藤隆弥さん（法学部法律学科）、第2部では吉澤総一郎さん（経済学部経済学科）が答辞を述べた。

式典終了後には、袴やスーツを着た卒業生同士で思い出を語りあう様子や、記念撮影をする姿が見られた。また、プロムナードには、クラブ・サークルの部員から寄せられた祝福と感謝の気持ちを添えたメッセージボードが、学生センターには、風船で装飾されたフォトスポットが設置されるなど、学内は祝福ムードに包まれた。